

科目区分	専門教育科目	授業科目名	インターンシップ2				科目コード	25L124	担当者	濱口 なぎさ、森 弘行、木須 裕也			担当形態	複数
対象学科・コース	生活創造学科 地域未来創生コース	配当年次	2年次	開講学期	通年	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件				
授業形態	実習	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分		
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	企業での実習を行い、お客様とのかかわりを通して、企業の役割や機能を具体的に理解する。								科目に含めることが必要な事項			

授業の主題	企業での学外実習の「基礎編2」であり、事務や販売、サービスの職場で求められる職業人としての資質や素養を修得する。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	実習先の評価を事後指導の二者面談のときに口頭で伝える。
授業の方法	現場において「専門的」な業務に携わることで、学内では学び得ない職業人としての資質を身に付ける。また、実習先の評価のみならず、学内での実習前のガイダンスとレポート提出、実習後の報告会も評価の対象となる。	アクティブ・ラーニングの実施方法	実習先で見学学習、体験学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワークを行う。

授業計画		事前・事後学修
<p>&lt;実習前のガイダンス&gt;            ○学外実習の概要説明、実習先の希望調査票の作成            ○昨年度の実習報告書の閲覧、実習関連レポートの作成            ○実習心得の熟知、実習課題の作成、関連書類の作成</p> <p>&lt;実習期間中&gt;            ○学外実習の実施、実習日誌・報告書の作成 ※実働5日間</p> <p>&lt;実習後のガイダンス&gt;            ○学外実習の報告会・反省会            ○実習後アンケートの記入</p>		<p>&lt;実習前&gt;            ○ガイダンスのポイントの整理と実習の準備            180分</p> <p>&lt;実習期間中&gt;            ○実習の振り返り、実習日誌・報告書の作成            180分</p> <p>&lt;実習後&gt;            ○学外実習の総復習180分</p>
		事前・事後学修時間

教科書 [書名/著者名/出版社]	必要に応じてプリントを配付する。	受講生へのメッセージ	企業の方々は、業務多忙な中で時間を割いて皆さんを指導していただきます。常に謙虚な態度で実習に取り組み、専門的な知識や技能の修得を心がけ、積極的に活動するよう努めてください。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点 学修成果の 比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)
観点	尽心	① 学習意欲	50					50	授業への参加意識が欠如することなく、向上心を持って真面目に受講することができる。	勤働性 真面目さ 自己管理能力	参加意識	欠如0回で50点。	欠如1回で40点。	欠如2回で30点。	欠如3回で20点。	欠如4回で10点。
		② 規律性	10					10	私語や居眠りをする ことなく、人として守る べき善悪や是非の判断 ができる。	職業倫理 ルール 社会性	受講態度	注意0回で10点。	注意1回で8点。	注意2回で6点。	注意3回で4点。	注意4回で2点。
	創造	③ 知識														
		④ 技能														
	思考・判断	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力														
	表現	⑦ 言語活用能力	10					10	実習内容に関する活動 や成果について、的確 な文章表現や文章構成 ができる。	文章表現力 文章構成力	実習課題 実習日誌 実習報告書	実習内容の90%以上を理 解して記述できる。10 点。	実習内容の80%以上を理 解して記述できる。8 点。	実習内容の70%以上を理 解して記述できる。6 点。	実習内容の60%以上を理 解して記述できる。4 点。	実習内容の50%以上を理 解して記述できる。2 点。
		⑧ コミュニケーション力	10					10	実習内容に関する活動 や成果について、的確 なプレゼンや意思伝達 ができる。	意思伝達力 プレゼン力	実習報告 全体報告会	実習内容の90%以上を理 解して説明できる。10 点。	実習内容の80%以上を理 解して説明できる。8 点。	実習内容の70%以上を理 解して説明できる。6 点。	実習内容の60%以上を理 解して説明できる。4 点。	実習内容の50%以上を理 解して説明できる。2 点。
	実践	⑨ 主体性	10					10	実習内容に対して、主 体的・自主的に取り組 むことができる。	自主性 行動力	実習先評価	実習の90%以上に主体的 に取り組むことができ る。10点。	実習の80%以上に主体 的に取り組むことが できる。8点。	実習の70%以上に主体 的に取り組むことが できる。6点。	実習の60%以上に主体 的に取り組むことが できる。4点。	実習の50%以上に主体 的に取り組むことが できる。2点。
		⑩ 協働性	10					10	実習内容に関する他者 の意見や感情を理解 し、チームワークで取 り組むことができる。	他者理解 チームワーク	実習先評価	実習の90%以上にチーム ワークで取り組むこと ができる。10点。	実習の80%以上にチーム ワークで取り組むこと ができる。8点。	実習の70%以上にチ ームワークで取り組む ことができる。6点。	実習の60%以上にチ ームワークで取り組む ことができる。4点。	実習の50%以上にチ ームワークで取り組む ことができる。2点。
合計			100				10	10	60	20						